

めでいかすどる
Médicastre



「戌年の年男・年女」

鶴岡地区医師会

18年 1月号

年頭にあたって

鶴岡地区医師会会長

齋藤 壽一

新年明けましておめでとうございます。会員、職員の皆様には健やかな新年を迎えられたことと存じます。

昨年も暗い話題の多い年でしたが12月の大雪には驚くとともに除雪の毎日にうんざりしました。今後の積雪量の推移を注視していく必要があります。

年末に史上二度目の医療費の引き下げが公表されました。その内容は今後の発表を待つしかありませんが、医療の現場への悪影響がなるべく軽微になってほしいものです。国民負担の増大に加えて医療レベルの低下と国民皆保険制度の崩壊という事態だけは何としても避けなければならないと思います。今後の政府と日本医師会執行部の動きを監視していく必要があります。もう一つの懸念は、地方における医療システムの荒廃の危険です。山形県および鶴岡地区医師会のメーリングシステムで大いに討論されていますが、帰するところは仕事量に対し病院医師数が絶対的に不足していることです。医師養成制度の不備という問題もあります。基幹病院である市立荘内病院を含む多くの施設と地域モデルを模索していく必要があります。

皆様のご指導、ご支援を頂いています当医師会の諸事業はほぼ順調に進んでいます。ハード面では老人保健施設“みずばしょう”で太陽光発電設備40kWと車庫の建設が終了し、予定の計画が完成しました。ソフト面では居宅介護支援事業で事業者としての独立性を高めるためにケアプランセンター“ふきのとう”を立ち上げました。今後の課題としては大きくなった組織の活性化

のため医師会本部制の導入、湯田川リハビリテーション病院の医師の増員、健康管理センターと在宅サービスセンターの狭隘化への対応、Net4Uを含むIT化の推進などがあります。これらの課題に対し、皆様の協力を得て対応していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上種々の話題について申し上げましたが、今後の当医師会の事業の運営には関係諸団体のご支援と会員、職員の皆様のご助力が不可欠です。ぜひともよろしくお願いいたします。

新年が皆様にとって明るいものでありますことを祈念しています。

新年を迎えて

湯田川温泉リハビリテーション病院院長
竹田 浩洋

明けましておめでとうございます。会員の諸先生におかれましては、ご健勝にて新春をお迎えのことと思います。昨年は、数多くの死者を出した福知山線脱線事故、相次ぐ児童に対する凶悪犯罪など、事件と事故多発の年でした。年末には最上川鉄橋において特急脱線転覆事故まで起きて、暗い一年をいっそう印象付けた感があります。

今年は冬季オリンピックやサッカー・ワールドカップなど、楽しみなスポーツの祭典が盛り沢山です。日本選手の活躍を祈り、回復してきた景気が一層上向きになることを願って、新たな気持ちで新年を迎えたいと思います。

お蔭様で当院は順調な歩みを続け、はや六年目を迎えることとなりました。昨年は各方面からの貴重なご意見をいただきながら、職員一同力を合わせた結果、日本医療機能評価機構による病院機能評価に合格することができました。今年はこれを土台に、ますます知識を深め、技術を磨き、経験を積んで、新たな飛躍の年にしたいと考えています。

今春の健康保険・介護保険の同時改定は、財政逼迫を理由に、前例のない大幅な診療報酬引き下げが決まりました。予想を上回る厳しい医療費抑制政策は、医療の進歩を阻み質の低下を招くだけでなく、これまで真剣に医療に取り組んできた人々の意欲低下を惹き起こすおそれがあります。世界に誇ることができる日本の医療制度は、今最大の危機に直面していると言えるでしょう。

経済優先・弱者切り捨ての論理がまかり通り、国民に対しては重い経済的負担がの

しかかります。特に病める老人にとっては、受難の季節を迎えることとなります。高齢者を数多く扱う私たちとしましては、患者さんの負担ができるだけ軽くて済むように、慢性期医療機能を向上させ、より効率的なリハビリを提供して、短い期間で入院の目的が達成できることを最優先課題としたいと考えています。

入院期間が短縮されると、維持リハビリとの連携が一層重要となります。訪問リハビリや、みずばしょうをはじめとする維持リハビリ施設との連携をさらに強化し、入院リハビリにおける目標や課題を確実に伝えて行きたいと考えています。また、機能の低下が懸念される症例に対しては、昨年9月から導入した再入院・再リハビリ制度を十分活用して、維持リハビリへの円滑な移行を図りつつ、必要な症例に対しては、早めの入院・再リハビリで対応いたします。

これから3.16%という大幅マイナス改定の全貌が明らかになっていくわけですが、療養病院にも大嵐が吹きすさぶことが予想されます。減収を最小限に止めるよう、病院経営委員会に諮りながら努力して行きます。今年もどうぞよろしく願いいたします。

初めての正月を迎えて

介護老人保健施設 みずばしょう 管理医師
遠藤 栄一

明けましておめでとうございます。

おかげさまで昨年5月のゴールデンウィーク明けに開所しました「みずばしょう」も、初めての新年を迎えることができました。医師会員の先生方には入所者をご紹介いただいたり、入所者の検査をお願いしたり、退所者の退所後の診療をお願いしたりとまことにお世話になっております。当初の目標のとおりリハビリテーションに力を入れ、利用者には基本的に在宅へ帰っていただくということを目指して、日々の生活の中にリハビリテーションを取り入れてまいりました。

昨年10月には介護保険の改正があり、影響が大きいところでは在宅で介護を受けている方と負担のバランスをとるため施設利用者の入居費・食費分の負担が増えました。それに伴って施設利用者の負担額が増したため入所継続困難となった方や入所の申し込みをひかえられる方達が増えて、入所予定者が減る傾向がみられましたが、その後、徐々に持ち直して、年末は90%以上の稼働率で年を越すことができました。

今春にも介護保険の改正が予定されており、現行の要支援・要介護1を対象として新予防給付を創設し、介護予防訪問介護・介護予防通所介護・介護予防短期入所生活介護など、サービスに介護予防の機能を強化していく方針が打ち出されることとなっています。新予防給付の対象者は要介護者とは区別した「要支援者」とし、これらのサービスの運営は市町村が責任主体となる「包括支援センター」が行い、原則として平成18年4月から施行される予定ですが、

準備が整わない市町村に対しては最大2年間の準備期間をみとめられます。市町村は事業者を指定・指導・監督し、原則として当該市町村の被保険者のみにサービスを提供する「地域密着型サービス」を実施することとなり、市町村の権限と責任が強化されます。また、ケアマネジャーの質の向上のため資格の更新制・研修を義務化するようなことも検討されているようです。例によって、改正内容の細部が開示されるのは施行開始間近になることと思いますが、「みずばしょう」各事業所は新たなサービスの提供を模索していかねばなりません。

設備の面では、NEDO(新エネルギー産業技術総合開発機構)の補助金が通り、開所当時になかった40kWのソーラーパネルが居住棟の屋根の上に設置されました。12月でも天気の良い日中は元気に蛍光灯130～150本分位の発電をしています。この辺りでは年間45万円程度の電気代の節約になるということです。

私も含めまだまだ施設の仕事に不慣れな職員が多い現状ですが、「みずばしょう」がよりよい施設となるよう、今後ともご指導よろしくお願い致します。

新年抱負

自分でも驚く程の高齢になって外出には杖が必要ですが、幸い車の運転が出来るので独りで旅行をしたりと結構多忙な生活をしております。医療面では約40年前から始めた内視鏡検査を現在も週2回担当して、微小癌等を発見したり現役として今も頑張っております。
(宮原病院 宮原祝子)

還暦を迎えることになりました。あと何年開業医でいられるか分かりませんが、正しい診断が出来る様に心がけて行きたいと思っております。
(石田内科医院 石田 博)

成年の新年を迎え「今年の抱負は？」と自分に問い掛ける。
でも私は知っている。計画を立てたり、目標を持ったりするのは一番の苦手。
これまでの半世紀余りも様々な決断で予定外(今年の流行語で言えば想定外)なのです。
何よりのハプニングは、主人との結婚である。出会いから4ヶ月で結婚式、その後も予定外の3人続けての出産と子育て、そして当初は考えていなかった鶴岡への転居と実家の病院での仕事。駆け足の忙しい30年余の結婚生活でした。
還暦を迎えて、これからは医者としての仕事のほかに色々な時間を楽しめる暮らし方をしたいと想っています。そして勿論同じ成年の元気な母、家族を大切に。
(宮原病院 長島早苗)

医師になるまで24年、医師になってから24年ちょうど1/2ずつになりました。どちらの24年間もそれぞれにいろいろな思い出があります。そしてこれからの12年、24年はどうなっていくのか不安が多い昨今ですが、希望を持って頑張らねばと思っております。
(荘内病院 五十嵐敬郎)

七度目の「戌」年を迎えることができました。大正・昭和・平成、日進月歩飛躍的に医学は進歩しております。
相互信頼でゆっくりゆっくり自分のペースで地域医療に貢献できればと思っております。
本年も宜しくお願い致します。
(田宮医院 田宮長二)

山ほどの病気を体験し、お蔭で病児の気持ちを理解することが出来る様になった。
超音波検査の発想は、そのあたりから始まった。
(おぎわら医院 荻原 満)

日本も戦後元年(成年)から還暦の年、ひとつの節目です。開業から12年、猪年(平成6年)から猪突猛進してきました。ここらでギヤを入れ替え、力まずに周りを見渡しながらか郷、庄内の生活を満喫できたらいいなあと感じています。
(中村内科胃腸科医院 中村秀幸)

皆様のおかげで元気に過ごしております。今後、医師会のますますの発展を祈願しております。
(佐藤克巳)

表紙写真にご協力いただいた先生の紹介（敬称略）



ご協力ありがとうございました。



人間ドック結果個別相談会・講演会

今年度、最後となる第3回個別結果相談会・講演会を開催しました。今回は人間ドックの結果票に案内を入れてPRをしました。その結果、鶴岡以外の藤島、羽黒、櫛引、三川町からの参加もあり、熱心に個別相談・講演会を聞いておられました。

講演会では、「ドック腹部超音波検査でわかる病気」と、「認知症(痴呆)とうつ病について」を中目先生より講演していただきました。超音波検査の画像を見ながらのお話は、説得力があり、PR効果絶大でした。認知症に関しては、「パチンコは予防になるのか?」「認知症の人とのかかわり方は?」など、質問する方が多くいらっしゃいました。

来年度も、引き続き新しい企画を入れて事後指導に力を入れていきたいと思います。今回は、来年度のドック申し込み期間と重り、センタードックのPRをして閉会しました。

(管理課 難波 秋夫)

平成17年12月15日(木)
健診結果個別相談 16時30分 19名
講演会 18時30分 45名
「ドック腹部超音波検査でわかる病気」
「認知症(痴呆)とうつ病」
中目 千之 先生



故 奥 山 雄 一 先生の御冥福をお祈り申し上げます。

平成 17 年 12 月 18 日午前 3 時 30 分死亡 享年 65 歳

弔 辞

謹しんで鶴岡地区医師会会員 故奥山雄一先生のご霊前に弔辞を捧げ、深く哀悼の意を表します。

先生は、埼玉で手術を受けられて退院された後、可能性を追求し積極的に治療を継続されました。一時状態が安定されたとき、ご夫婦で宮崎に旅行に出かけたり、八丈島にも行かれたりして、良い時間をもたれました。しかし、病魔の進行はいかんともし難く、12月18日に急遽ご逝去されました。一生懸命に支えられた奥様のルミ子先生をはじめとして、ご遺族の皆様のお悲しみは、いかばかりかとお推察いたし、惜しみても余りある急逝は、まことに残念でなりません。

先生のこれまでのご活躍と温厚なお人柄を考えますと、本当に痛惜の念に耐えないところであり、医師会員並びに職員一同心からご冥福をお祈り申し上げます。

顧みますと、先生は昭和大学医学部を昭和45年にご卒業になり、母校の第二内科に入局されました。幾多の研鑽の後、昭和54年10月に現在地の鶴岡市大東町に開業されました。以来、先生は四半世紀にわたり夫婦二人三脚で地域の医療、保健のために尽力されました。やさしく、親しみやすいご性格で、地域の厚い信頼を得てこられた先生は、鶴岡市立第三中学校の学校医、いくつかの団体の嘱託医、さらに多くの企

業の産業医として、営々と地域の医療・保健衛生のため尽力されました。

また、先生は鶴岡地区医師会にも大きな貢献をされました。平成元年4月より14年3月までの13年間に亘り監事として、その要職を歴任していただきました。監事就任中は、介護保険事業の導入、湯田川温泉リハ病院の運営受託など医師会にとって体制基盤の構築や運営の在り方の面できわめて重要な時期に当っておりましたので、それに応えるように医師会の発展のためご尽力されております。

時にはユーモアを持って、時には鋭い発言で、医師会の監査をリードされました。温厚篤実なご性格の中にも鋭い洞察力と大局観を持ち、決して屈しない信念を貫きとおして問題の処理と解決をはかってこられた指導力は、今なお、我々役員の方にも刻まれるものがあります。

さらに、先生は、山形県医師会代議員、健診総合判定委員会内科部会長、各種検診委員などのほか、健康管理センターの各種検診への出勤などをお勤めいただきました。このように、地域の医療、保健、さらに医師会活動における先生のご功績はまことに大きく、あらためて心から敬意と感謝の意を表するものであります。

最後に、先生は、我々役員をはじめ職員とも公私ともに、お付き合いをしてくださりました。いつの日でしたか、先生にお会いしたとき、「できたら、皆とまた川端通りや

昭和通りで、一献、交わしたいなあ」と言
っておられたことを思い出しますと、実現
できなかったことは残念でなりません。

先生もご承知のとおり、いま社会は急速な
少子高齢化に遭遇し、人口減少も現実のも
のとなってきたおり、地域における医療、
保健、福祉の在り方も大きく変わりつつあ
ります。

鶴岡地区医師会も、これに対応すべく努力
しているところです。我々医師会員は、先
生が示された静かな、しかし、確固とした
情熱とご意志を受け継いで、地域の人々の
健やかな生活を増進するため、さらなる行
動を続けてまいります。

ぜひ、我々を影ながら見守ってください。
本日のご葬儀にあたり、鶴岡地区医師会を
代表し、先生のご功績とご遺徳を偲び、心
からご冥福をお祈り申し上げ、お別れの言
葉といたします。

どうぞ先生、安らかに眠りください。

平成17年12月21日

鶴岡地区医師会

会 長 齋 藤 壽 一

マイペット&マイホビー

- 第29回 -

犬塚 信

この度、マイペットについて一言と云われたが、私個人はペットより書の方に興味があり、現在も下手ながら毎日筆を持ち練習を続けている。我が家の若者はお犬様ならぬ、お猫様に陶醉し、お猫様はすべてに先行して一番偉く、強く、力もありこれに逆らうと大変なことになる。私はそのお猫様に「ごま」をすり、漱石の句（写真左）を書き大阪で行われていた書道展に出展したところ、はからずも最優秀賞を得た。ご笑覧頂ければ幸いである。

私の父は無類の動物愛好家で、手掛けた動物は馬、緬羊、豚、犬、猫、猿、狸、狐、鼠、モルモット、兎を始め鶏、七面鳥、鳩、鷺、その

他の野鳥約百羽、更に金魚等を求め、暇を見ては自分で餌をやり、金魚に至っては大きな水槽を五個求め、自分で孵化させ、その腕はプロをも凌ぐ程であった。馬のような大形の動物は農家に預け時々出向いては裸馬に乗り、小真木街道を走らせ大満足していた若き日の父の得意げな顔が浮かんで来る。また父は口ぐせのように犬は飼主に対して絶対裏切らないが、お前達人間はなっていないと嘆いていた。この年になって当時の父の気持ちが分かるが、今となつてはあとの祭りである。

もし父が健在で、マイペットについて一言と云われれば、喜んで筆を走らせたと思う。

然し私は父からみれば、突然変異で、動物は好まず、酒は飲めず、全くなにからなにまで不肖の子である。

私が書に興味を持ったのは小学校五年の時に、叔父が母の訪問着に百人一首の和歌とカルタの絵を書き、その訪問着が出来上がってきた時、母の喜びは格別で、その時の光景が忘れられなかったことに端を発する。俺も成人し結婚したら着物に一筆したしめて妻を喜ばせてやろうと思ったのも確である。然しその後の日本はご承知のように波瀾万丈で、そんな夢もいつしか消えていった。



平成十七年度産経国際書展出展作

右・かな
左・漢字



私が父の跡を継ぎ四十歳を過ぎた頃、ある薬屋のセールスが、彼の娘の小学校入学を機に書を習わせたいからと云うことで、新日本書道教育連盟の書道教室入会の申込書を持ってきた。その時私は自分の書の力がどの程度のものかと試してみたくなり、そのセールスに娘と一緒に私の分も頼んでくれと教室への入会を申し込んだ。入会后初めての書が六級、ちなみに最下位は八級とのこと、これは練習を重ねれば上に進めると思い、腰を入れて書と取組むことにした。以来提出する毎に面白いように進級した。然しそれのみで書が続けたわけではない。丁度その頃、私が小学校時代我が家の家庭教師をしていた大恩人中村理助先生が食道癌に侵され闘病生活を強いられていた。当時は癌告知も許されず、勿論のことながら抗癌剤もなく、更に今日のような高度な医療の技術や設備もなくただ手を拱ねいて寿命を待つしかなかった頃のことである。そんな恩師に少しでも喜びと希望を持ってもらえたらと云う思いにも裏打ちされた書であった。私が毎月提出した書の進級を誰よりも待ちわびていたのがこの恩師であった。よう！今度もまた進級したか？と苦しい息の下から「笑み」を浮べて私を励ましてくださったのである。慰めようと思つての行為が、逆に声なき声に励まされたのが、今日の書であり、延いては私の生きざまのひとつにもなったと云うのが、偽りのないところである。恩師の弟子を思う心に打たれながら、一分、一秒を惜しみ、文字通り寝食を忘れ、昼夜の別なく、一寸の暇を見つけて筆を取り、やっと三段に昇格した。その報告を聞いてまもなく、大恩師は他界した。勿論のことながらその後も一日たりとも筆を休めることなく今日も続けている。気がついてみると三十五年の歳月が流れていた。この間継続は力なりの言葉が、実感として五臓六腑に滲透していた。そのお蔭で八段→教授となり更に会の最高位である「会士」の称号を得た。もし大恩人が生きておられたらどんなにか喜

ばれたかと思うと悔しくてならない。「更に一層樓」の言葉が身にささる。



私は書を通じて「王羲之」の筆蹟に初めて出逢い、そこに不滅の輝を見、別世界に導かれたような、言葉では表現出来ない大きな感動を受けた。穏健で高雅、いかにも気品高く貴族的な風格を兼ね備え、書は勿論のこと人間的にもその偉大さを感じ、私は無条件で脱帽した。その書は約千六百年の歳月を経た今日においても、斯道の最高峰として高く、凜として下界を見おろすさまは、わが国の霊峰富士をも思わせる。このような不滅の巨匠と書を通じ巡り合えたのも私にとって何よりの宝であり、幸いである。

また書は私の心を穏やかに、無心の世界に導いてくれた。前述の如く書を通じて、何千年も前の先人と語り、そして先人の生きた世界に浸ることも出来たし、今日のような狂乱とも思える世界から、一時なりとも超俗の世界に遊ぶことも出来た。そして明日へエネルギーを供給してくれたのも、またどろどろした人間社会からも、更に十数年前に妻をなくした暗闇から私を強く起ちあがらせてくれたのも書であった。書との出逢いに改めて感謝し、書を師と仰ぎ、或る時は友として、書の道を通じて何時の日か人生の奥義を窮めたいと念じているものである。

Introduction

勤務医 No.72

荘内病院

耳鼻咽喉科 高野由美子 先生

平成13年4月から荘内病院耳鼻咽喉科に勤務させていただき、鶴岡暮らしも今年ではや5年目です。平成7年3月に山形大学医学部を卒業し、大学院卒業後、米沢市立病院を経て当地勤務となりました。当初は新病院ができるまでかとも思っておりましたが、居心地が良いため、移転後も引き続きお世話になっている次第です。

出身は新潟県栃尾市というところですが、新潟県のなかでは中越地区にあたり、なかでも特に雪の深い地域ですが、山古志に近く、昨年の中越地震では実家も少なからぬ被害を受けました。さらにお話するなら、なんと私自身が震災の被災者なのです。と申しますのも当日の土曜日はたまたま実家に帰省しており、両親とともに長岡市内の入浴施設に出かけておりました。夕方5時50分に男湯・女湯の前で集合時間を確認し合っただけに入り、洗髪を始めて間もなく5時56分に突如、ドスン、ユッサユッサと尋常でない揺れが始まったのでした。上を下への大混乱のなか何とか身支度して駐車場にたどり着き、町中が停電しているなか、通れる道路を探し探し、やっとの思いで実家に辿り着きました。強い余震が続くため、家にもいられず、朝まで車中でまんじりともせず過ごしたことは忘れられない思い出です。私は勤務のため、翌日曜日には戻って参りましたが、その道中で早速“災害復旧”の大弾幕を掲げて中越に向かう秋田ナンバーの電気工事車両とすれ違い、どんなに有難く頼もしかったかしれません。さら



各地から次々と御厚意が寄せられたわけですが、荘内病院からも医療班の派遣があったり、炊き出しをしていただいたり、多額の寄付を送っていただいたりと本当に新潟県人としては感謝・感謝の思いです。中越地震は私にとって、あまりしたくない経験でしたが、それだけに貴重な得難い体験となりました。

さて、今回私が登場させていただきましたのは重要なお知らせをさせていただくためでもあります。当院からのお願いの手紙などにより、既にお聞き及びかかもしれませんが、再度この紙面をお借りして荘内病院耳鼻咽喉科の外来日程の一部変更につきまして御案内させていただきたく存じます。この度、誠に勝手ながら、平成18年2月から毎週、火曜日の午前中と金曜日は、手術のために外来診療をお休みさせていただくことになりました。外来診察時間は下表のようになります。御不便をおかけすることになり、誠に恐縮ですが、これまでと同様に当科への御紹介を賜りますようお願いいたします。

めでいかすとる

表 紙 募 集

写真、絵画、e f c . . . 医師会事務局まで

～ 編 集 後 記 ～

記憶にないほどの豪雪で新年が明けました。暖冬の予報むなしく、人間の英知なんて自然を前にしてはこんなものと諦観せざるを得ません。新年を迎え、新たな目標を掲げたり祈願をされた方も多いのではないのでしょうか。少子高齢化、2007年問題など社会の仕組みも大きく転機を迎えています。医療のプロとしてマスコミの世論の誘導に流されることなく、みんなで作り上げてきたこのすばらしい日本の医療、皆保険制度に自信と誇りを持ち、国民に説明をしていきたいものです。

それにしても特急いなほの脱線事故の日本海病院を中心とした活動、新沢院長の指揮のもとでの機敏な手際のよい対応（花笠加登レポートに詳細があります）を見聞きし、鶴岡地区でも天災や大事故が発生した場合の対策や対応はどうなのでしょう。

今年も本誌を、会員間の連携のツール、ちょっといい話など、話題のネタとして皆様に読んでいただけるように編集員、スタッフ一同がんばります。どしどし投稿お願い致します。ワン(!) ダフルな年でありますように。

(中 村 秀 幸)

編集委員：伊藤末志・三原一郎・中村秀幸・石原 良・福原晶子

発行所：社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町 1- 34

TEL 0235- 22- 0136 FAX 0235- 25- 0772 E-mail tsurumed@mwnet.or.jp

URL <http://www.mwnet.or.jp/~tsurumed/>

印刷所：富士印刷株式会社 鶴岡市美咲町 27- 1 TEL 22- 0936(代)